

平成19年度 仏教テレフォン相談 統計分析表

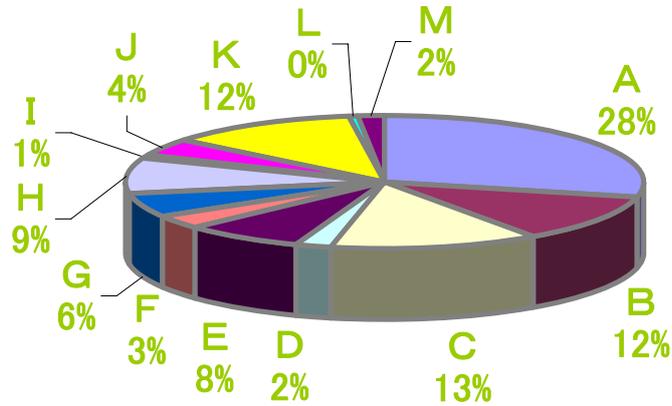
平成19年6月1日～平成20年5月31日
〔 25年目 〕

相談開室日数	217日
相談者数	3,599人
1日平均相談者数	16.6人
相談総件数	4,274件
1日平均相談数	19.7件

大分類

	(件)	前年度比
A 人生相談	1,224	-2.5%
B 信仰の意味、教義、仏教文化や学問	497	+20.6%
C 葬儀、法要、供養、永代供養	557	-3.3%
D 戒名・法名	99	-11.6%
E 寺院・僧侶・既成教団の在り方や運営	323	+0.6%
F 仏教の年間行事、特殊法要	135	-2.2%
G 家庭での祀り方やお勤め	247	-12.1%
H 仏事の常識やマナー	372	-12.3%
I 既成寺社の祈願・祈祷	38	-7.3%
J 占い、迷信、靈感・霊視商法（既成仏教以外のこと）	179	-9.6%
K お骨・埋葬、墓地・墓石	512	-7.4%
L ペット・針・人形などの供養	18	-25.0%
M その他、時事問題や仏教以外の行事など	73	-2.7%
	4,274	-3.1%
N 行政機関やマスコミからの問い合わせ	69	+23.2%

平成19年度相談項目大分類

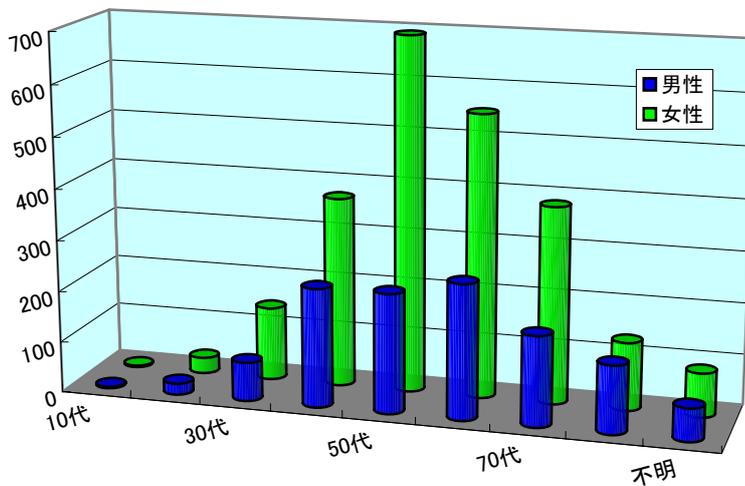


男女比

	男性	女性 (単位:人)
10代	3	3
20代	22	31
30代	76	144
40代	232	372
50代	233	693
60代	263	552
70代	176	384
80以上	132	133
不明	64	86
	1,201	2,398

男性 33.4%

女性 66.6%



テレフォン相談は社会の窓であり、そこには様々な悩み、苦しみ、救いを求める声が寄せられる。その小さな窓から垣間見える現代社会の現象を考察してみました。

相談を分類してみると、圧倒的に人生相談が多い。

人はどうして悩み苦しむのだろうか。私たちの悩みは尽きない。青春時代に悩みは付きものだが、現代では壮年・老年になっても悩みは多い。当然、青春時代とは違う悩みであろうが、人はいつの時代も悩み苦しんでいる。

相談の統計からは男女とも50代、60代からの人生相談が一番多い。本来ならば、仕事も家庭も一番安定していいはずのこの年齢の方々が誰よりも一番悩んでいる。

何かと悪者のように言われる『団塊の世代』、この年代の方々の悩みは尽きない。私たちは学ばなければならない。本来なら落ち着いた生活ができるこの年齢の方々が、なぜ悩み苦しむのか。その悩みはどこから生まれ、悩み続ける人はどこに向かっていくのか。

経済至上主義で戦後を生きてきた日本人の生き方を変える時なのだ。経済という不安定なものを主軸に生きるのではなく、ゆるぎなく、不動の大きなものを支えとして生きていく。今こそ仏教的生き方の時代なのだ。苦しみの原因を見つめて、改善して生きていく方法は、仏教以外にはない。